コナガの薬剤感受性低下とキャベツの被害を同時に防ぐ

概　要 Abstract

・ジアミド系薬剤の感受性低下（薬剤が効きづらくなる）リスクを管理できる使用間隔を明らかにした。

・残効と感受性低下リスク管理を両立できる薬剤ローテーションを示した。

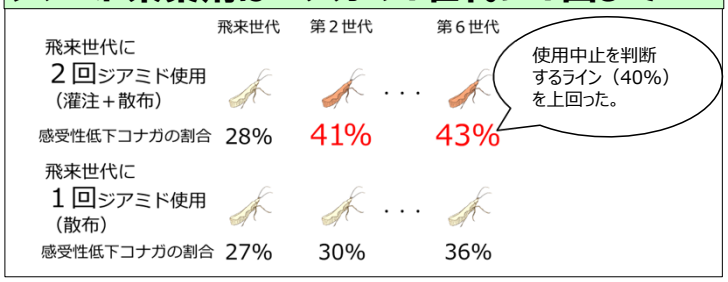
成　果 Results

成果①

飛来するコナガの抵抗性個体群割合から道内ではジアミド系薬剤の使用は可能です

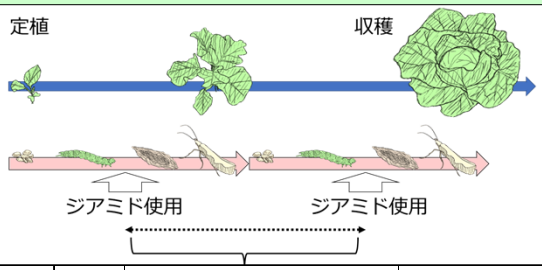
成果②

ジアミド系薬剤はコナガの１世代に１回まで



成果③

適正な使用間隔を空ければ感受性は低下しにくくなります



5月	6月	7月	8月		9月	
45日	30日	25日	25日	35日	30日	45日
全道共通			道央、道北、道南	道東	道南	道央、道北

成果④

残効と感受性低下リスクを考慮して薬剤を選び、多系統の薬剤をローテーションしましょう

定植時灌注で使用する剤

グループa	
残効が21日以上 感受性低下リスクはやや低い～高い剤	
ジュリボフロアブル	ベリマークSC
スタークル顆粒水溶剤	ガードナーフロアブル

グループb	
残効が14日前後 感受性低下リスクはやや低い～高い剤	
キックオフ顆粒水和剤	ヨーバルフロアブル

黄色はジアミド系を含む薬剤のため使用間隔に注意

茎葉散布で使用する剤

グループA	
残効が14日以上 感受性低下リスクが低い基幹剤	
ディアナSC	スピノエース顆粒水和剤
ブロフレアSC	グレーシア乳剤
ジャックポット顆粒水和剤	

グループC	
残効が7日前後だが 感受性低下リスクが低く、他害虫への効果も見込める補助剤	
ファインセーブフロアブル	アクセルフロアブル
ゼンターリ顆粒水和剤	エスマルクDF
アクセルキングフロアブル	

グループB	
残効が7～14日だが 感受性低下リスクが高い補助剤	
プレオフロアブル	ハチハチ乳剤
フェニックス顆粒水和剤	プレバソンフロアブル5
ベネビアOD	カスケード乳剤

同系統の剤は連用を避け、グループＡ剤とＢ・Ｃ剤を組み合わせて散布する。

普　及 Dissemination

・コナガのジアミド系薬剤感受性低下リスクを管理する防除体系として、キャベツの減農薬栽培に活用できる。

・本成果における防除の考え方は他アブラナ科野菜に応用できる。

連絡先 Contact

中央農業試験場
病虫部 予察診断グループ
０１２３－８９－２２９０
central-agri@hro.or.jp